えいが

大学に入学したころから，授業にも出ず，映画に凝り出し，毎週４～６本の映画を鑑賞していた。(というよりむしろナガメていた。)

このようになったきっかけは，大学の近くに，招待券を安く売る店があると，先輩から教わったからである。

招待券の性質上，月初めの頃は，案外，値が高く，当時(昭和42年頃)で400～500円していた。しかし，大劇場の入場料が 1,000円前後だから，半額である。月末になると，たたき売り同様になり，50～70円まで値が下がった。月末封切の映画は，大特価の50円程度でみることができ，大いに助かった。

その頃，印象に残った映画は、「七人の侍」,「用心棒」(これらは再プリント)，「上意討ち」，「空軍大戦略」，「パットン大戦車軍団」，「レマゲン鉄橋」，「バルジ大作戦」，「荒鷲の要塞」，「夕陽のガンマン」等々である。その他，「寅さんシリーズ」，高倉健，藤純子，鶴田浩二の「東映仁侠路線」———これが大変面白かった。特に，ラストシーンの何事にも妥協しない「○○！，死んで貰います」のセリフが好きであった———言訳ではないが，あまりポルノ映画はみなかった。

私の好きな映画は，大別して３つに分かれる。

一つは，戦争(アクション)映画。私は，娯楽超大作（理屈は全く必要ない。）を最も好むところであるから自然とこの種の映画をみる機会が多くなる。

二つは，時代劇，近年，この類の映画の作成本数が減少しているのは残念である。もっとも，この頃はテレビでみているが……。

三つは，いわゆる「ヤクザ映画」。

県庁に就職してから（昭和46年頃）は，ありとあらゆるもの，すなわち，面白ければなんでも（口に入ればアンマの笛でもの譬どおり。）みている。その中でも，パニック映画は面白い。これに病みつきになったのは，豪華客船の転覆をテーマにした「ポセイドンアドベンチャー」をみたからである。その後,「エアポート'75」——ジャンボジェット機の遭難をテーマにしている。「大地震」——この映画の音響効果は，センサラウンド方式で，マグニチュード７の震動を観客に感じさせている。「タワーリングインフエルノ」——高層ビル火災の恐怖を描いている等が，公開された。

ところで，かつては映画は芸術ではないといわれていた。

その理由は

①イリュージョンがないこと。映画は彫刻と異なり,「動」を「動」として描いているということである。(彫刻は「静」を「動」としてみることができる═══イリュージョンが介入する機会がある。)

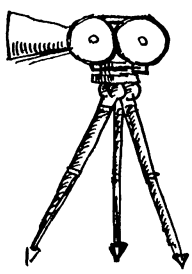
②機械によって製作されること。

③集団によって製作されること。芸術とは，製作者個人の魂の昇華によって生まれるものであり，集団によって製作されるものではない。

等であった。

ちなみに，日本ではじめて「映画は芸術である」と唱えたのは，谷川徹三であった。

昨秋，病に倒れてから，その後，菅原文太の「トラック野郎」をみたきりで，洋画は全然みていない。この頃は，若い女の子とでも（否是非），甘いラブロマンスでもみに行ってみたいと思っている。ちなみに，私は28歳，二人の子持ちである。　　（上　沢）



迷解 植物辞典 (第3回)

【せ ～ と】

せんぶり（千振）……〔原義〕りんどう科の2年草。山野にはえ，秋，白色に紫の筋のはいった花を開く。茎・根ともに苦く，干して薬用にする。

〔派生〕 「千回振り出してもなお苦い」漢方薬である。「熊の胆」も苦くて薬用であるが，こちらは動物性。「苦虫」は昆虫類で，「苦虫をかみつぶしたような顔」と言うから，よほど苦いと思うだろうが，「苦虫」なんて昆虫は実在しないのである。

ただし，にがにがしい顔や言動をする人のことも「苦虫」というが，こちらは動物性で，有毒である。

そば（蕎）……〔原義〕たで科の一年草。夏・秋の頃白色の花を開き，三角形の黒い実を結ぶ。食用。そば粉を水でこねて線状に切った食品。そば切。

〔派生1〕 輸入物のそば粉で作ったそばを，輸入物の大豆で作ったしょう油と化学調味料から成る汁の中に入れ，国外で捕れたエビの天プラに，これだけは国産のネギをパラリとちらして食べる。これで命をつないでいるのが国産の日本人の多数である。

〔派生2〕 「そばかす美人」には2種類ある。もともと美人で，そばかすがその魅力を一層引き立てている場合。そう一つは，もともとは不美人であるが，そばかすの影に顔が隠れて美人に錯覚する場合。

たけ（竹）……〔原義〕かほん科の常緑多年生植物。横に走る地下茎から直立・中空で節のある地上茎が出る。葉は細長い。器具用。たけのこは食用。

〔派生〕 竹から生れて，月へと去っていったのは「かぐや姫」である。竹から赤ん坊が生れでるなどとは，どんな子供だって信じていやしない。しっかりと現実をお知えるべきである。「赤ん坊はキャベツの芽から生れてくるのだ。」

チューリップ（tulip）……〔原義〕ゆり科の多年草。5月頃，美しい花を開く。観賞用。うっこんこう（鬱金香）。

〔派生1〕 鼻の下が長いということの代名詞である。「あの人はチューリップである。」と言えば，「あの人はエッチである。」という意味になるが，心の底から否定できる人などいたらお目にかかりたい。

〔派生2〕 100円で咲かせることのできる安価な花。最近，「開け，開け，パッと開け」と唄われているが，その割に満開になりづらくなったとか。インフレであることを，胸にしみて感じさせる花である。

つばき（椿）……〔原義〕つばき科の常緑きょう木。木の皮は灰白色。葉は厚くてつやがあり，春，赤または白の美しい花を開く。観賞用。種はつばき油用。

〔派生〕 昔々，女性が黒髪の手入れに使ったのが，この「椿油」。それに対して男性（特に学生）が使ったのが「唾油」。手に唾をつけて，髪をなでつけるのである。

てんこうこくしょく（天香国色）……〔原義〕牡丹の花の別名。うまのあしがた科の落葉かん木。5月頃，紅色，白色，紫色等の大形の花を開く。根の皮は漢方薬用。

〔派生〕 「深見草」，「名取草」，「二十日草」というのも牡丹の別名である。

別名ばかり数多いと，肝心の実体が正確に把握できなくなる。「シーザーとは，誰のことかとカイザー言い。」という具合に，自分で自分のことがわからなくなる。日本では「シーザー」が有名だが，ドイツ語読み，フランス語読み，イタリア語読み，英語読みで違うのである。

役所も似たようなもので，肩書きばかり多くて，実体は霧の彼方にある。

トマト（tomato）……〔原義〕なす科の一年草。初夏に黄色の花を開き，赤（黄）色で水分の多い実を結ぶ。赤なす。

〔派生〕 アメリカの俗語では，少女のことをトマトとも言う。かわいらしいものを果物に喩えることは多い。「ブドウ」のようにつぶらな瞳，「バナナ」のような鼻，「リンゴ」のように真っ赤な頬，「イチゴ」のような唇，全部をひとまとめにした顔を想像すると，これはフルーツ・ポンチの化物である。 （伊藤）